

山行報告：鶏冠山～合地山～池口岳周回山行

- 【山 域】 南アルプス深南部
【ル ー ト】 鶏冠山～合地山～池口岳
【登山方法】 ヤブ山テント縦走
【期 間】 11月2日(夜)～11月5日
【メンバー】 CL 吉川(記)、柘植
【記 録】



11/2 土気 19:30－大宮 IC－中央道経由飯田 IC－道の駅遠山郷（仮眠）

11/3 (晴) 道の駅遠山郷－池口集落駐車－池口橋 6:20－シャクナゲ沢登山口 7:40－犬切尾根 9:50
－鶏冠山北峰 12:50－笹の平 13:25－水汲み(約 40 分)－幕営

池口橋近くの空き地に駐車し、池口川右岸を進むが、行き詰り引き返して左岸を遡り、堰堤の下で右岸に渡渉、堰堤を越え暫くして左岸に渡渉し、シャクナゲ沢登山口に取り付く。



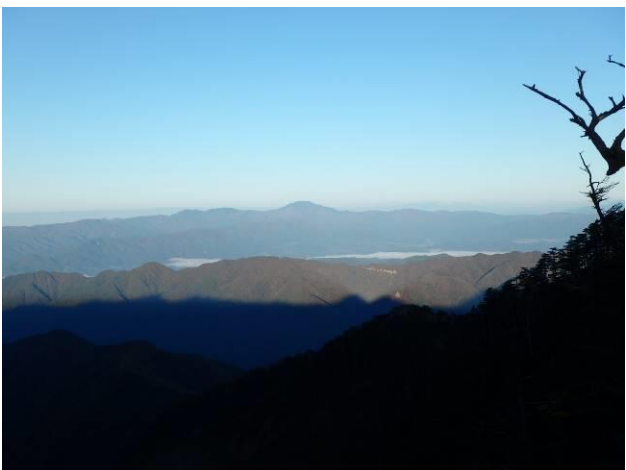
300m 程登り、シャクナゲ沢を越して、500m 余り標高を稼ぐと犬切尾根に乗る。久々の重荷に大汗を流した。樹林帯の緩やかな尾根に時々急斜面や少しの藪を交え長い尾根歩きで標高を上げ笹が出てくると最後の一登りで鶏冠山の北峰に登り上げた。樹林に囲まれた山頂は展望もなく、風も冷たいので、休憩もそこそこに、水を求めて笹の平に下る。



笹に隠れた倒木に思い切り向う脛を打ったりこけたりしながら今日の幕場に到着した。笹に覆われた丘は陽の光を受けてとても綺麗だが、ここを下って水を汲みに行くのは容易ではない。思いのほか早く着いたので、のんびりでき、昨晚の寝不足も解消でき嬉しい。明日は、三年越しに行きたかった合地山の山頂に立てる思いを胸に就寝。



11/4 (晴) 笹の平 5:40－鶏冠山北峰 6:20－鶏冠山南峰 7:20・中ノ尾根山 10:05 ー合地山 13:10
ー柴沢小屋 15:55 (泊)



鶏冠山北峰から南峰前鋭鋒鞍部までは順調に進めたが、トラロープの下がる際どい岩場からの巻き道を見つけるのに手間取ってしまった。西側の巻きだが、崩れた倒木が、踏み跡を隠していた。こうして南峰に立ち振り返ってみると、稜線を辿っても進めたかもしれない。難関を一つ越えシラビソやツガ、笹藪の稜線を進み、中ノ尾根山が近付き、合地山も見えてくる。



アップダウンを繰り返すごとに目標の山が近くうれしさを感じる。開けた稜線から過って自分の歩いた山を眺められるのも気持ちが良い。二度と来ないだろうと思った中ノ尾根山は、シラビソの幼木帯を避け西側に回り込むようにして平坦な場所に立ち山頂を探した。4、5年前も同じようにして記念写真を撮った。合地山までは、尾根が蛇行しているので、近くに見えるが、距離はある。今日の工程の半分くらいしかこなしていないので先を急ぐ。樹林が開けると笹藪漕ぎになったり、あまり変化のない稜線を進み、ようやく合地山 P1 を頑張り、合地山 P2 の山頂に立てた。中ノ尾根山から黒沢山の縦走の時、ど

っしり大きい存在感のある合地山に立ってみたいと思った光景がよみがえった。ここからの標高 1000m の長い下降は疲れた。苔むした大木の横たわる急斜面の下降や、二重山稜の尾根の移動、磁石を細かく刻まないとずれてくるので、GPS のお世話になったりもした。そして、荒れた林道に降り立った時は、いろいろな緊張から解き放されほっとした。こんな厳しい下りでも、広葉樹の落ち葉を蹴散らかすように歩いて楽しんだり、写真に収められない、斜陽に映える紅葉の美しさを感じたりすることもできた。柴沢小屋に到着。小屋の脇にある千頭大吊橋を見てびっくり！苔のついた板が腐り落ちているところもあり恐怖！足を置く場所を確かめた。この深い山奥での夕食は、豪勢にポトフ風スープとウナギ飯です。



11/5（晴）柴沢小屋 5:35－千頭山 8:40－だるまの頭 11:10－池口岳南峰 12:15－池口岳北峰 12:50
－黒薙 15:20－池口岳登山口 17:00－駐車地 18:00－道の駅遠山郷（入浴・夕食）
－飯田 IC－中央高速経由－01:30 帰葉



恐怖の大吊橋を渡り尾根に取り付いたが、過つての登山道は無残に崩れ、とても危険な状態だった。山側に体重を寄せ慎重に登った。傾斜も緩み普通に歩けるようになったとき、単独登山者に会った。この辺の山をよく歩いている様子なので、だるま崩れのコース情報を教えていただいた。単独者は、千頭山をベースにどこかの山をピストンするらしい。山頂に近づくにつれ、踏み跡は消え、藪が濃くなってきた。尾根の中心を外さないように登る。緩やかな平坦地にテントがあり、その横に山名板を見つけた。千頭山の山頂だと分かる。ここからだるま崩れまでは、コメツガやシラビソの比較的痩せ尾根で、アップダウンではあるが、藪がないので歩きやすい。やがて正面が大きく崩れている場所に出た。だるま崩れの基部だ。ここからは西に張り出す尾根を回り込んで稜線に戻るのだ。ルンゼを二箇所通過し高度を下げない様にトラバースし、その後標高差 100m 位は、ザレた急斜面をほとんど四足歩行で、木の根があるところを選んで登った。予想した核心部を越えてホッとした。あとは、日暮れまでに下山できるか？池口岳で判断することにして先を急ぐ。池口岳南峰へは、膝丈の笹を分けて登る。展望の良い草原のような山頂で、ゆっくりしたい処だが、日暮れまでに登山口に届きそうなので、早々に出発した。



池口岳北峰では、今日二人目の登山者に会った。黒薙で、池口岳を振り返り最後の展望を脳裏に刻み、傾く夕日に向って下山した。夕やけが、紅葉した葉っぱをいっそう紅く染め綺麗だった。日没と同時に登山口に出た。かなりハードに歩いたので、ここでゆっくり休憩してから林道を下った。途中すっかり日も暮れてしまい、ヘッドランの灯りで車に辿り着く。今回のコースで、合地山から千頭山、だるまの頭から池口岳までの記録で把握できるほどの資料もなく不安はあったが、何とか踏破できた。三年越しの計画で、合地山だけ頭の中で膨れ上がっていた。いざ合地山の山頂に立ってみて、ここに來たかったの？って思ってしまった。が、今浮かんでくる山頂は、シダと苔の大地にシラビソや、コメツガの森。やっぱり深南部はいいなあ。色々な面で厳しい山でもあったが、充実した山行に大満足でした。